

南スーダン「日報」隠ぺい疑惑

安倍首相も関与か



共産党・笠井衆院議員が切り込む

日本共産党の笠井亮議員（比例東京ブロック選出）は7月24日の衆院予算委員会で、南スーダン国連平和維持活動（PKO）への派遣部隊が作成した「日報」の隠蔽（いんぺい）疑惑をたどしました（左写真）。この中で笠井氏は、稲田防衛相の疑惑を追及するとともに、安倍首相自身の関与に切り込み、隠蔽が、まさに政権ぐるみで行われたのではないかと厳しく追及しました。

PKO「日報」問題をめぐる動きと安倍首相の動向

17年1月17日 岡部陸幕長に、陸自で「破棄した」としていたデータが見つかったことが報告される

1月18日 安倍首相が黒江事務次官、豊田官房長と面会

1月27日 統幕の防衛官僚が上層部と相談し「今さら陸自内にあったとは言えない」と陸自に伝達。その後データ消去

2月15日 稲田大臣が黒江事務次官、豊田官房長らとの会議で、陸自データ保管の「報告」を受け、非公開を「了承」

3月15日 報道で陸自にデータが保管されていたと判明

3月17日 安倍首相が黒江事務次官と面会

陸自にも日報があったことがわかった直後に防衛次官らと面会。「安倍首相が対処方針を指示したのではないかと追及

笠井氏は、安倍首相が、陸自でのデータの存在が岡部俊哉陸幕長に報告された翌日の1月18日、防衛省の黒江哲郎事務次官と豊田硬官房長の2人と面会し、報道で陸自のデータ保管が明るみに出た2日後の3月17日も黒江事務次官と会っていると指摘（左表参照）。「要所要所で報告を受けて、対処方針を指示したのではないかと」たどしました。

安倍首相は、防衛省幹部と会っていたとは認めながら、「報告を受けたことはない」、「陸自に日報（のデータ）があったという報告を受け、（私が）それを外に出さないという指示をするはずがない」と主張しました。

「これだけの大問題を、首相の指示もなく自衛隊が勝手にすすめるなどありえない」

笠井氏は、「これだけの大問題を総理の関与・指示もなく防衛省・自衛隊幹部が勝手に進めていたなど、ありえない」と述べ、日報隠蔽の動機は現地の自衛隊部隊ではなく、安倍政権側にあったと指摘。「戦闘」の事実が明記された日報が明らかになれば、憲法上の問題となるからと、「政権ぐるみで南スーダンの危険な現実を国民に隠してきたのではないかと」批判しました。

政権ぐるみで隠ぺい。安倍政権に審判を!!

南スーダンに派遣されていた自衛隊が危険な実態にあったのに、戦争法=安保法制の発動実績をつくりたいために、その危険を政権ぐるみで隠すなどということは、自衛隊員の命にもかかわることで許せません。こんな安倍政権にノーの審判をつきつけましょう。

東京
民報

ご意見・ご要望は 03-5972-1621、FAX 03-5972-1590
2017年7・8月号外 日本共産党東京都委員会の見解を紹介します。
発行/東京民報社(港区芝1-4-9 平和会館5階) 1965年11月12日第三種郵便物認可

日本共産党